静岡県東伊豆町

稲取温泉

海辺町で絶景の温泉と伝統行事に触れる

雛のつるし飾りまつり

静岡県東伊豆町にある稲取温泉は海岸線に小さく突き出た岬に位置し、伊豆大島と太平洋を望むロケーションで、絶景の露天風呂と、稲取や近隣の漁港で水揚げされる新鮮な海の幸が温泉地最大のセールスポットとなっている。ほかにも「雛(ひな)のつるし飾りまつり」等の歴史のある伝統行事を目当てに訪れる常連客も多いという。

7月18日に海開きを迎える「磯 SeaGarden IKEJIRI」は今年もSNSの投稿が話題になっており、海離れで海水浴場が苦戦している中、リピーターを中心とした海水浴客でにぎわっている。

夏の恒例行事、花火大会は7月20日から5日間、8月24日から5日間と合計10日間の開催。打ち上げ場所は旅館の稲取銀水荘前と池尻海岸サンライズテラス、稲取漁港の3カ所。それぞれ午後8時半から10分間、約250発を打ち上げる。

絶景の秋の細野高原

秋に訪れたい観光名所として、「未来に残したい草原の里100選」にも選ばれた稲取細野高原があり、ハイカーを中心ににぎわっている。伊豆半島の最高峰とされる天城連山と、広大な相模湾に浮かぶ伊豆諸島を望む東伊豆随一のパノラマスポットだ。東京ドーム26個分に相当する125㌶もの草原が、黄金色に色づき幻想的な景色を作り出す。今年の「秋のすすき鑑賞会」は、10月からの約1カ月間開催される。

雛のつるし飾り発祥の地である稲取の早春のイベントといえば、例年1月20日から3月31日まで開催される「雛のつるし飾りまつり」だ。隣町の河津桜まつりと同時期の開催で伊豆の東海岸が最もにぎわう時期である。メイン会場となる「文化公園雛の館」には約1万8千個のつるし飾りが展示されており、華やかな色彩に多くの観光客が魅了される。

町内には他にも三つの展示会場があり、街を散策しながら楽しめるが、最大の注目が素盞嗚(すさのお)神社ではひな人形の展示段数日本一とされる118段の階段にひな人形とつるし飾りを展示している。厳かな神社の雰囲気と色とりどりの華やかなひな飾りが織りなす光景はまさに圧巻である。

来年の「雛のつるし飾りまつり」は30周年という節目を迎えるため、素盞嗚神社雛段飾りも例年より1週間延長し、27年2月6日から3月7日まで開催する。他にも30周年を記念して伊豆稲取駅のつるし飾りの展示をリニューアルしたり、つるし飾り関連の記念品が当たるスタンプラリーを実施するなど、さまざまな企画を計画しており、雛のつるし飾り発祥の地としてさらなる発展が期待される。

静岡県浜松市

舘山寺温泉

「シン・湯治」や愛犬と泊まれる温泉アピール

浜名湖の美しい自然に恵まれた舘山寺温泉

平安時代（810年）に弘法大師が旅人の心を清めるために開創したといわれる「舘山寺」（静岡県浜松市）。江戸時代には徳川家康から御朱印判物を賜り、東海地方の名刹(さつ)として繁栄してきた。浜名湖の美しい自然に恵まれた景勝地として、県の観光スポットの一つとなっている。

舘山寺温泉の開湯は1958年。泉質はナトリウム・カルシウム―塩化物強塩泉で、塩分濃度が高く、血行が良くなる効果があり、関節痛やリウマチ、神経痛に効くとされる。

舘山寺温泉につかり、浜名湖ならではの食や自然、アクティビティを楽しみながら健康を保持・増進してもらおうと、舘山寺温泉観光協会は2025年4月から「シン・湯治」の取り組みを始めた。

パンフレットの制作や協会ウェブサイト内に「シン・湯治」の特設ページを開設してアピールするほか、今年4月1日から来年2月末まで、「シン・湯治」クーポンを販売。クーポン券3千円相当を2400円で販売するほか、旅館・ホテルの宿泊客はさらに2100円で購入できるようにした。

志ぶき橋の夕景

加えて、遠鉄観光開発とタイアップし、路線バスを改造した移動型サウナバス「サバス」の運行も開始した。

これに先立つ2月には、温泉街や遊園地・浜名湖パルパル、はままつフラワーパーク、浜松市動物園などを含めたエリア全体の活性化を目指すプロジェクトを発足。メンバーには観光関係者や地元自治会、静岡大情報学部、市などが名を連ねている。29年春開業が予定されている旧ホテル九重跡地の再開発を視野に、29年度までの事業計画を策定する。

本年度は、①地域全体で一体感をもって②魅力・価値を分かりやすく伝え③来訪者に共感してもらい④強いつながりを作っていくーに、地域の期待も大きい。

いわゆる「インタープリテーションモデル」の確立で、26年度は、地域資源の掘り起こしや共通キャッチコピーの策定などに取り組む。

「『にっぽんの温泉100選』の順位は25年で86位だったが、28年には50位以内、そして10年後は30位以内を目指す」（観光協会）と意気込む。

舘山寺温泉には愛犬と泊まれるホテルが2軒、食事できる飲食店が3軒、愛犬と楽しめる観光&アクティビティ施設が6軒あるのを生かし、「ドッグフレンドリーなまち」作りも進めている。

その一環として、浜名湖パルパルでは、昨年7月から、開園日であればいつでもワンちゃんと一緒に愛犬同伴での入園が可能となった。湖畔の心地よい風を感じながら、広々とした園内をワンちゃんと一緒にウォーキングでき、映えるフォトスポットも満載。

100選のランクアップで誘客を図る熱い取り組みに、地域の期待も大きい。

岐阜県下呂市

下呂温泉

夏の夜イベント、各地で開催

温泉たまごがトッピングされた「温玉ソフト」に加え、最近では「下呂プリン」「飛騨牛にぎりずし」も人気。

下呂温泉（岐阜県下呂市）は「日本三名泉」の一つで、2025年度の「にっぽんの温泉100選」では第2位となった。2020年以降5年連続で3位内にランクインしており、旅行会社の社員が注目する国内屈指の温泉地だ。

泉質は単純泉（アルカリ性単純泉）で、リューマチや病後・疲労回復、神経症などに効能がある。滑らかな肌触りは美容や健康づくりにも優れた効果があり、女性好みの湯といえる。

三つの共同浴場で外湯が楽しめる。無料の足湯も8カ所設置され、散策の途中で気軽に入れるのも魅力。お得な「湯めぐり手形」を購入すれば3軒で入浴することができ、旅の記念や土産にもピッタリだ。

JR下呂駅を下車してすぐの温泉街をぶらぶらしながら、食べ歩きするのもいい。ソフトクリームの上に温泉たまごがトッピングされた「温玉ソフト」に加え、最近では「下呂プリン」「飛騨牛にぎりずし」も人気。

飛騨牛はもちろんジビエ料理も注目されている。県は「ぎふジビエ」加盟店登録制度を設けているが、下呂温泉では水明館が登録されており、絶品のジビエ料理が味わえる。

自然豊かな環境を思い切り楽しむアクティビティも充実。ウェットスーツに着替えてシャワークライミングが楽しめる小坂の滝めぐりや、クアオルトウォーキングは特におすすめ。健康づくりのためのウォーキングコースは下呂市内に2コース設置されている。

このほか下呂温泉は、夏の夜を彩る多様なイベントを実施している。

今年7月18日から8月15日までの毎週土曜日には、「サマーフェスティバルin下呂温泉」を白鷺橋周辺で開催（8月1日は開催なし）。8月4日火曜日には特別公演を実施。地元の屋台が多数出店し、太鼓やダンス、バンド演奏など、毎週異なる催し物が楽しめる。

サマーフェスティバルの様子

「清流馬瀬川火ぶり漁」

8月1日からの4日間は、夏最大の人気イベント「2026年下呂温泉まつり」も開催。5頭の龍が光と炎の中を乱舞する「龍神火まつり」をはじめ、下呂温泉の趣向を凝らしたみこしが夜の温泉街を練り歩く「湯の華みこしパレード」「下呂おどり」などが行われる。3日には、全国花火競技大会で「内閣総理大臣賞」を受賞した花火師による「下呂温泉花火ミュージカル夏公演」も実施。コンピューターを駆使して音楽のリズムに合わせる演出が特徴で、約1万発の花火が温泉街の夜空を彩る。

また馬瀬エリアでは、たいまつの炎と音でアユを捕らえる伝統行事「清流馬瀬川火ぶり漁」も鑑賞できる。今年は9月6、19、26日と10月3日に開催する。

兵庫県洲本市

洲本温泉

大阪湾の朝日望める眺望自慢

鱧・鯛・とらふぐを楽しんで

鱧の湯引き

淡路島の南東に位置する洲本温泉。各旅館ホテルとも眼前に広がる大阪湾の眺望が自慢だ。大浴場や露天風呂から、大阪湾に上る日の出を楽しめる施設もある。朝日が海面に映って作る「光の道」は洲本温泉ならではの絶景だ。来年1月には洲本温泉で最高級となる1泊1室約30万円の旅館が開業予定。団体から、インバウンドの富裕層も見据えたハイクラスの個人客まで、今まで以上に幅広い層のニーズに対応可能となる。今年冬には、温泉街と洲本市街地を結ぶ夜間の無料送迎バスの実証実験も行われる。宿泊施設のみならず、島内最大級、地元で愛されてきた「昭和レトロ」な飲食店街をホッピングする、新しい過ごし方も提案するなど進化が続く。

豪快な宝楽焼（上）と淡路島3年とらふぐのてっさ

「御食国（みけつくに）」として古代から朝廷に食材を献上していた淡路島は、現在も食の宝庫。島内の各旅館ホテルでは、地元産品をふんだんに使った季節折々の料理が楽しめる。

淡路島の名産といえば、海の幸。関西の夏の代名詞である鱧(はも)だが、秋口の脂ののった「名残の鱧」もおすすめ。同じく秋になると脂とうまみののった天然マダイ「淡路島えびす鯛(たい)」も旬を迎える。丸のままのタマネギなどとともに1尾を丸ごと蒸し焼きにする宝楽焼は、素材そのものが優れた淡路島ならではの名物料理。その見た目と味わいに、盛り上がること請け合いの一品だ。冬は知名度と人気が定着してきた「淡路島3年とらふぐ」。通常より1年長い3年をかけて育てたトラフグは、うまみも深まり、たっぷりと太った白子の食べ応えと濃厚さは特筆ものだ。

眺望と温泉と食を楽しめると京阪神で人気の淡路島だが、近年はその魅力が広まり、京阪神以外からの旅行者も増加。島内でレンタカーを借り、周遊するスタイルが人気となっている。島の持続可能な産業の営みや、自然、歴史・文化の「本物」を交流しながら体験できるコンテンツも100件を超え、島での滞在、周遊観光の目玉となっている。季節や早朝、夜間限定の体験もある。洲本温泉に滞在しながら、本物の淡路島を楽しんでみてはどうだろうか。

愛媛県松山市

道後温泉

最古にして最先端

道後温泉本館インスタレーション

約3千年の歴史を持ち、日本最古の湯といわれる道後温泉（愛媛県松山市）。昨年の「にっぽんの温泉100選」では3位に位置し、毎年ランキングの上位に名を連ねている。

道後の湯はアルカリ性単純泉。刺激が少なく、湯治や美容に適していると評判だ。

道後には三つの外湯がある。まず一つは、道後温泉のシンボル「道後温泉本館」。2019（平成31）年1月に保存修理工事に着手し、2024（令和6）年12月に完了。約6年の時を経て、本来の姿に戻って

1階には「神の湯」と「霊の湯」と呼ばれる浴室があり、風呂上がりには2階と3階の休憩室でゆっくりくつろぐことができる。

また、日本で唯一の皇室専用浴室である「又新殿（ゆうしんでん）」は見学が可能だ。

この道後温泉本館は、1994（平成6）年に日本で初めて公衆浴場として重要文化財に指定されている。

そして二つ目の外湯が、「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉（あすかのゆ）」。日本最古といわれる温泉にふさわしく、飛鳥時代の建築様式を取り入れた美しい外観が魅力的な湯屋だ。2017（平成29）年にオープンし、来年には10周年の節目を迎える。開放的な大浴場と本館にはない露天風呂を備えており、本館の又新殿を再現した特別浴室では、昔の浴衣「湯帳（ゆちょう）」を着ての入浴体験ができる。

道後温泉別館 飛鳥乃湯泉中庭インスタレーション

三つ目は、「道後温泉椿（つばき）の湯」。市花であるつばきをシンボルとした松山市民の〝親しみの湯〟として広く愛されており、地元にとってなくてはならない公衆浴場となっている。

道後温泉駅を降りてすぐの道後商店街は、全国的にも非常に活気がある商店街として知られており、魅力的な土産物屋や飲食店が軒を連ねている。「坊っちゃん団子」をはじめとするスイーツの食べ歩きも楽しめ、特に愛媛名物の一つとなっている「鯛(たい)めし」は行列必至だ。

また、道後温泉は、伝統を守りつつ、現代アートを生かしたまちづくりでも注目を集めている。2014（平成26）年から始められたアートプロジェクトでは、まちそのものが作品の舞台となり、にぎわいをもたらしている。

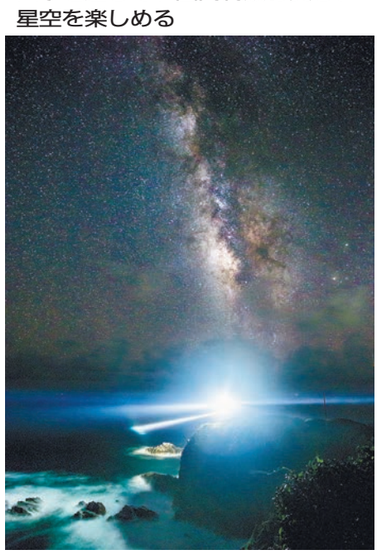
現在もアーティストの蜷川実花さんを迎え、「蜷川実花 with EiM × 道後温泉 DOGO ART」を展開中である。華やかに彩られた道後のまちは必見。会期は、2027（令和9）年2月末まで。

高知県土佐清水市

あしずり温泉郷

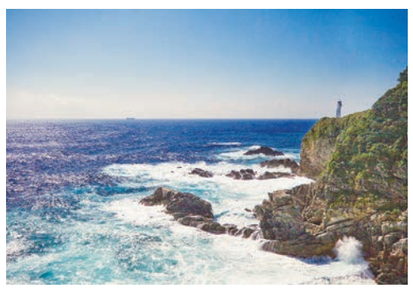
高知県随一の温泉地

三方海の自然美は必見


四季を通じて、国内有数の美しい星空を楽しめる

四国最南端、足摺半島にあるあしずり温泉郷（土佐清水市）。高知県内唯一の温泉郷であるこの温泉地は弘法大師が発見したとされ、開湯約1200年の歴史を持つ。その泉質は、「蒸気灘」から湧出するラドンを含む、単純放射能冷鉱泉。ラドン泉に含まれる自然放射線による療養効果は「ホルミシス効果」と呼ばれ、弘法大師が疲れを癒やしたといわれるのも納得の泉質だ。約150年前に大地震による地殻変動で湧出が一度止まったが、1989年の掘削で温泉が再度湧出。今は4軒の旅館・ホテルでそのお湯を楽しむことができる。

あしずり温泉郷の最大の魅力は、雄大な自然環境だ。太平洋に突き出した立地であることから各施設とも眺望は抜群。また三方を海に囲まれている上に民家や街灯が少ないことから、四季を通じた星空の美しさは特筆もの。中でも空気が澄んだ冬の星空は、都会では考えられないような数の星々や、鮮やかに立ち上る天の川などを目にすることができる。宿泊施設によってはガイド付きのスターウォッチングも行っており、あしずり温泉郷に宿泊する魅力の一つになっている。


四国最南端ならではの雄大な景色が広がる足摺岬

また1、2月には足摺半島に15万本、岬先端だけで6万本が自生しているヤブツバキの花が見ごろを迎える。足摺岬の遊歩道に約2㌔にわたり椿の花のトンネルができるほか、椿の花が真っ赤なじゅうたんのように遊歩道を埋め尽くす。

海に囲まれた同温泉は、海の幸も豊富。高知名物のカツオもおすすめだが、一押しは清水サバだ。生きたまま水揚げされることから、通常のサバでは難しい刺し身で味わえる。しっかりとした身の歯ごたえとうまみは必食だ。

足摺半島・中浜出身のジョン万次郎（中浜万次郎）も忘れてはならない。土佐清水市内には、生家を復元した施設や功績を展示した資料館など、関連スポットが点在する。足摺岬にははるか米国を望むジョン万次郎の像がたたずむ。ジョン万次郎像周辺は、9月から展望施設整備のため立ち入り不可となるが、2028年春までに遊歩道やフォトスポットなどが順次完成予定。代わりに足摺岬展望台の先にある天狗の鼻展望所がリニューアルされたことから、引き続き足摺岬の眺望を楽しめる。

28年にはジョン万次郎を主人公にしたNHK大河ドラマが予定されることから、注目が集まるのは必至。ひと足先に、足を運んでみてはどうだろうか。